



発行責任者 山元俊憲
昭和大学薬学部
東京都品川区旗の台1-5-8
電話：03-3784-8000 (代)

至誠一貫
昭和大学は、薬学部のほか、医学部、歯学部、保健医療学部からなる日本で唯一の本格的医系総合大学です。本学の建学の精神「至誠一貫」は、真心を持って患者さんに尽くすことを意味します。薬学部では、患者さん中心の医療を実践するヒューマニズムあふれる薬学専門家の養成を目指します。

表題の「薬と学ぶ」は、薬についての知識を学習するだけでなく、その知識を持ちながら、薬についてのプロフェッショナルという専門性を生かしてチーム医療の中で患者さんに対応する能力を学ぶという意味を表現したものです。

SPECIAL ISSUE ～東日本大震災救援活動～ 特集

東日本大震災で被害を受けたすべての皆様に心よりお見舞い申し上げます。

甚大な被害をもたらした東日本大震災に際して、**昭和大学**は岩手県山田町に3月15日～4月16日の期間、7次にわたる**医療救援隊**を派遣しました。全学から医師、薬剤師、看護師、歯科医師、学生など、計108人が参加し、昭和大学ならではのチーム医療による医療救援活動を行いました。さらに、ゴールデンウィークを利用して学生ボランティアが被災地各地に出向き、各種のボランティア活動を実施しました。今回は、被災地を支援する学生ボランティアの活動と経験談をお伝えします。

昭和大学の医療救援活動の報告

昭和大学薬学部薬学教育推進センター 教授 木内 祐二

昭和大学医療救援隊は、県立山田病院の外来診療と、町内の避難所や民家を巡回する回診型の診療を行い、のべ約3000人の診療に当たりました。



被災者を診る医師

診療は、高齢の方の慢性疾患（高血圧など）や風邪・インフルエンザなどの感染症の治療が中心でした。体力の低下した被災者の感染予防のために、避難所の衛生状態の改善にも力を注ぎ、高齢者の入浴の支援も行いました。

薬剤師は各チームに2名ずつ参加し、調剤や薬の管理とともに、救援隊の一員として最前線で積極的に医療支援を行いました。巡回では、被災者の方の健康状態のお話を伺うとともに血圧測定なども行い、津波で流されたお薬を推定し、医師と相談しながら新たな治療薬を決め、判りやすく説明しました。また、学生7名（**薬学部生3名**）も参加し、診療チームの一員として走り回り、大いに活躍してくれました。さらに、4学部の学生130人以上が、自主的に集まり、大学でのさまざまな後方支援活動を行いました。

今回の活動を通して、災害地医療における**チーム医療**の重要性と、昭和大学の「**至誠一貫**」に基づくチーム医療教育の成果を強く実感することができました。

できる事を積極的に行う 荻原 純奈（薬学部6年 海老名高校卒）

岩手県山田町に行き、医療救援隊の一員として主に調剤と服薬説明を行いました。高齢の方に説明をする事が多く、医薬品不足のため薬の種類が前回と異なることもあるため、わかりやすい説明と見やすい薬袋を作成することに努めました。

テレビでは被災地の状況がよく映りますが、現地に行くと被害の大きさに言葉を失い、少しでも現地の方々の役に立ちたいと強く思いました。そのためには幅広い知識が何よりも必要であり、できる事を積極的に行う姿勢が大切だと痛感しました。

今後とも、被災地の支援に様々な形で関わっていきたく思いますし、どんな状況にも対応できる薬剤師を目指したいと考えます。



薬の管理をする薬剤師



暗闇の中のミーティング



第5次 昭和大学医療救援隊（最前列左端）

心のケアも大事! 日向野 理輝（薬学部6年 真岡高校卒）

2011.4/30～5/4の5日間にわたり宮城県の七ヶ浜町にある避難所でお手伝いをさせていただきました。主な活動内容は朝の掃除、受付に配置されている日用品やお茶菓子などの配給と補充、来客者の案内、倉庫内の物資の仕分け、子供や高齢者と接することなどでした。

初日に印象的だったことは、子どもの暴言や暴力的な行動が目立ったことです。震災から2ヶ月近く経ち、大人に積

み重なったストレスが自然と子どもに向いてしまうケースが少なくないようです。子どもがはげ口の無いストレスを受けている場合、そのサインをきちんと読み取ることが重要だと学びました。みんなの名前を必死に覚え、一目中遊んで、緊張をほぐすよう会話していくと、最終日には一緒になって掃除をしてくれる程に受け入れてくれました。避難所内の医療救援隊の診療室では薬剤師が薬学面でのロジスティックに重要であると教わりました。



宮城県
山田町
釜石市
宮城県



I N F O R M A T I O N

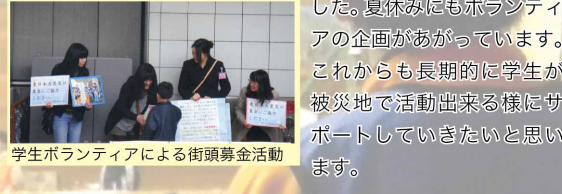
昭和大学の人試関連情報は、PCからアクセス <http://www.showa-u.ac.jp/admissions/index.html> または、携帯電話からアクセス <http://campus.ktai.at/showa/> QRコード

なんでだろう?
Q. 熱中症ってなんだろう?
この問題の解説は、 http://www.showa-u.ac.jp/sch/pharm/kusuri_manabu.html

学生ボランティアの活動報告

被災地じゃなくても助けられる! 稲垣 愛美（薬学部6年 湘南白百合高校卒）

3月11日以降、東北の現状がテレビで連日報道されました。数日後大学から医療救援隊の派遣が決まりましたが、免許を持っていない学生には何も出来ないのかと考えたあげく、それでも何かしたいと思った学生約130人で結成されたのが後方支援隊です。主に、医療救援隊の現地からの連絡を毎日電話で受取り、その時に足りないと言われた薬や食料などを都内で準備して被災地へ送り、過去の大地震の情報収集や、大学内や駅での募金活動も行いました。また、GWには学生をボランティアに派遣する為に、まだ交通の整っていない被災地で学生だけで安全に活動できる様に企画をしました。後方支援隊は実際に被災地に行くことは少なく、都内での活動が主でしたが、都内にいるからこそ出来る被災地へのサポートがたくさんあると知りまし



学生ボランティアによる街頭募金活動

昭和大学生ボランティアとして 塚本 絵美（薬学部6年 横須賀高校卒）

私たちはゴールデンウィークを利用して、岩手県の山田町で瓦礫撤去や物資の仕分けなどを行いました。きっかけは学生後方支援隊の活動の中で被災地の情報を知り、私たちがどこかできることがあるのではないかと話し合ったことです。実際、山田町はボランティアが不足しており、仕事は山のようにありました。私たちは微々たる事しかできませんでしたが、この少しずつが積み重なっていくことでやがて復興へと繋がるのだと思います。被災者の方々は力強くも疲労が重なっており、今後も多くの人の力が必要であることを痛感しました。

ご意見、ご質問：昭和大学薬学部人試広報委員会
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8
昭和大学薬学部毒物学教室内 担当：沼澤 聡
numazawa@pharm.showa-u.ac.jp

